

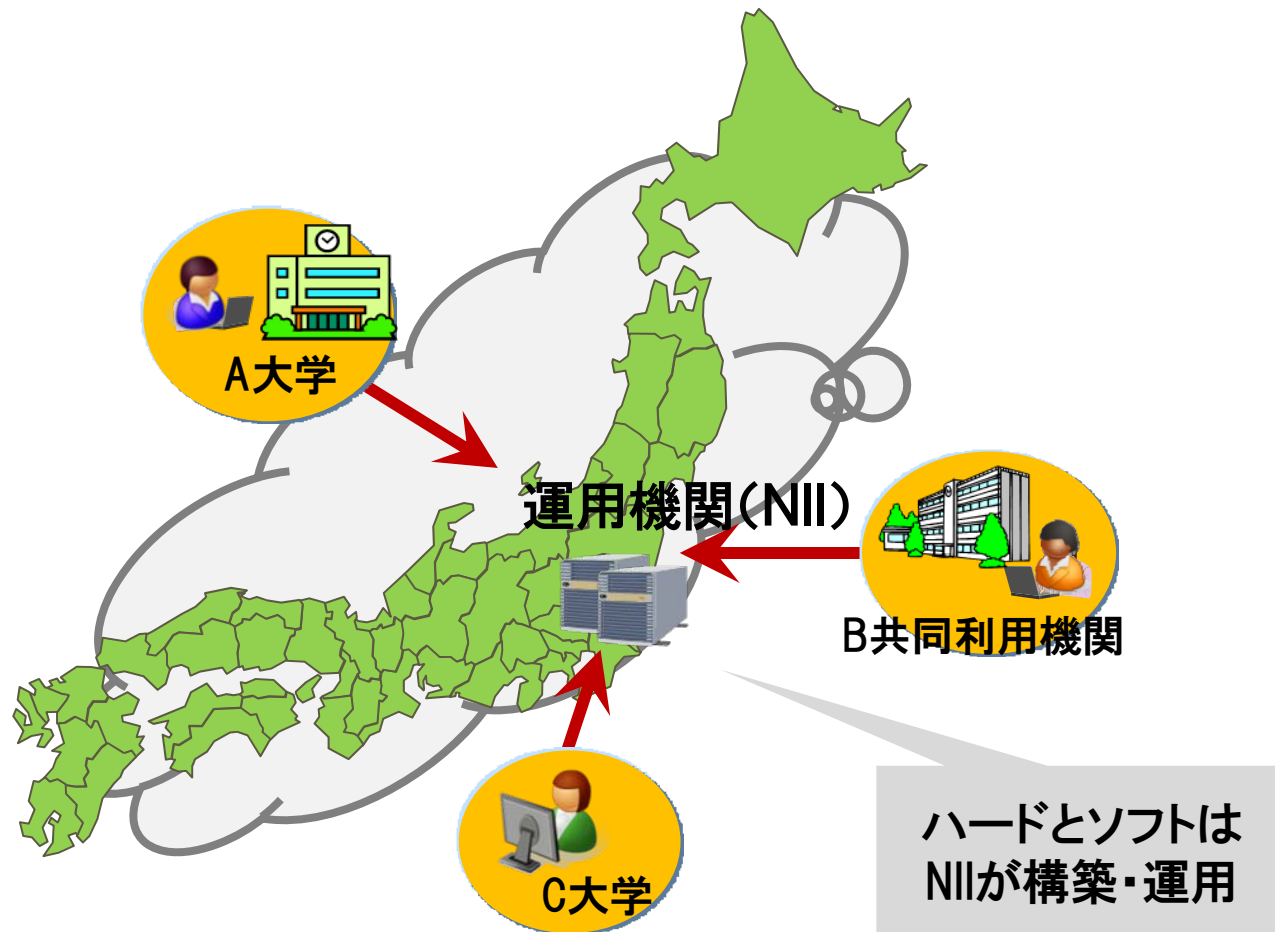
平成22年度CSI委託事業報告交流会
session5 panel discussion

国立情報学研究所における 共用リポジトリサービス

国立情報学研究所
学術基盤推進部長
安達淳

概要

- NIIが開発した機関リポジトリソフトウェア“WEKO”をベースに、共用リポジトリのシステム環境を構築する。
- 機関リポジトリの自力構築が困難な機関向けに、リポジトリのシステム環境を提供し、運用を支援する。



サービス対象者(WHO)

日本国内の大学、短期大学、高等専門学校、大学共同利用機関のうち、当面は、

新たに機関リポジトリを構築する機関

- 現在の構築数は204機関。IR全体では、今後5年間で+200機関の構築が目標。
- 既構築機関と合わせて合計400機関となり、博士後期課程を持つ大学はほぼカバーする。
- そのうち、約半数を本サービスでカバーする。

サービス内容(WHAT)

システム	WEKO (ウェコ)
利用範囲・カスタマイズ	WEKO管理者権限でできる範囲
サポート	ML・コミュニティサイト等、できるだけユーザコミュニティ内で解決する方向性
利用料	当面、徴収しない
ディスク容量	いくつかのオプションを提示
その他	ヒアリング等実施させていただき、サービスレベル等について具体化する予定

※変更の可能性あり

スケジュール(WHEN)

平成23年度～	実証実験の開始
平成23年 7月～	説明会の開催（ヒアリング等の実施）
平成23年 9月～	本システムの環境構築開始 追加機能（WEKO）の設計開発
平成23年10月～	公募開始
平成23年10月～	システム講習会の開催
平成24年 1月	試行サービス開始
平成24年 3月	実証実験の終了
平成24年度～	本サービス開始

※変更の可能性あり

シナリオ(HOW)

学術コンテンツ登録システムを使って紀要を公開している…

学位論文、科研費報告書、紀要等のコンテンツが、学内で分散して管理されている…

共用リポジトリから発信することにし、

CiNii等の各サービスと連携すれば、

多様なコンテンツ（学内成果物）を、大学として、ひとつの窓口から発信し、広く世界に利活用してもらうことが可能となる

背景(WHY)

- **学術審議会作業部会の『審議のまとめ』**

「独自でリポジトリの構築・運用を行うことが難しい機関…が共通利用できる共用リポジトリのシステムを構築することにより、リポジトリへのコンテンツの登載や公開が容易になるような仕組みを早急に検討する必要がある。」

- **第3期CSI委託事業 公募要領**

「機関リポジトリの構築を新規に検討している機関向けに、システム基盤（HW・SW）を第3期（H22-24）中に整備し、リポジトリシステム構築の選択肢として提供することを計画しています。」